

ビバハウス便り NO.76 (号外2)

6月20日 基金訓練第4期 赤井川教室を開講 !

2011年6月20日

いよいよ待ちに待った、赤井川教室開講の日を迎えた。ビバハウスから約25分で着ける赤井川教室に向けて、ジャスト9時に出発した。乗り合わせたのは、私たち夫婦のほかに、ひそかに今日の式典のフィナーレを飾っていただくことになっている「歌姫」、(埼玉大学教育学部コラボレーション教育専修 安藤聡彦研究室)大学院2年生の渡会真琴さんとビバハウスのMさんだ。「森のテラス」の会場に向かう道で、びっくりしたのは、小樽・赤井川ゴルフ場に沿って走る広い道から会場に折れる細い農道が、この前来た時とは一変、数百メートルに渡って、完璧に草刈が成されている。『ビバのスタッフが頑張ってやってくれたのだね』と言いながら、会場に着き、聞いてみたが、誰もやった人がいない。とっさに思いついた、ことによると、先日二人で表敬訪問したときに、『村をあげて歓迎いたします』と言って頂いた、赤井川村赤松宏村長さんの最初のご好意なのではないかと。

10時からの式典では、代表の安達俊子から、ビバハウス創設以来11年、今回はじめて余市町を出て、なぜ赤井川村で新事業に取りくむのかをお話した。来賓のご挨拶で、赤松村長は、赤井川には、約1億年前の人類の生存が確認され、赤井川産の黒曜石が、全道各地に拡散されていること、またこの『森のテラス』の地名、『日の出』地区は、今から100数十年前に入植した赤井川の開拓者の人々が、朝日を拝んだところからついた地名であるとのお話があった。

ご来賓として列席された赤井川村議会議長さま、ハローワーク小樽所長さま、有限会社サンユウ農産社長さまからそれぞれお心のこもった、若者たちへの激励のお言葉を頂いた。その後のスタッフ紹介に併せ、副校長の中村雅史さんの奥様の中村明子さんによる、グノーの「アベマリア」のピアノ独奏が森のテラスに心地よく反響するのを皆うっとり堪能させていただいた。中村明子さんは、基金訓練プログラムの中の「コミュニケーション・トレーニング」にもご協力くださるとのお申し出も頂いているので、今から楽しみだ。

若者たち一人ひとりも、精一杯の頑張りで、自らの決意を語ってくれた。『今までの自分を大きく変えたい』、『訓練生みんなと交わって、しっかりした自分になりたい』、『この訓練が終わったら、ひとり立ちできるように、働ける自分になりたい』など、どれも皆切実で胸を打つものばかりだった。すべてのスタッフと力を合わせて、必ず彼らの期待に絶対に応えなくてはならないと、改めて決意を新たにさせられた日だった。

ときあたかも同じ時期の新聞各紙には、生活保護者の総数が、ついに200万人を超え、国にとっても、各地方自治体にとっても、これ以上の財政負担には耐えられないとの記事が載った。北海道も就労支援を強化しなければならないとも書かれている。さらに、全道の限界集落の実態ももうこれ以上放置できない危機的な状況を迎え、初の『対策検討委員会』が開かれるとのことだ。この2つの課題に真っ向からの挑戦が『ビバ赤井川教室だ』。